

沖縄型金型

<9>

芽吹く技術

「自分が作ったものが世の中の役に立てばうれしい」。人情報を確認できる。業種はそう話すのは、琉球大学大学院理工学研究科機械システム専攻2年次の山城建一さん。

県内の製造業社への就職が内定している「技術者の卵」だ。来年4月の就職を前に「大学での実習や研究を通して、結果を分析する力を養いたい」と意気込んでいる。

琉大工学部は、県内大学で唯一の工学系の学部だ。機械システム工学科には、毎年在籍する学生、大学院生の2.3倍の求人が県内外から寄せられる。2011年度の求人

人材力

①

数は約350人。学生は学科「就職に有利な学科」と自信を見せる。県建設業協会や県工業連合会など県内6団体

琉大、沖縄高専で育成



加工機器の使用方法を学ぶ沖縄工業高等専門学校機械システム工学科の学生ら
11日、名護市の沖縄工業高等専門学校

と、製造業者を中心とした県内外61企業で組織する琉大工学部後援会による就職説明会も定期的に行われる。基礎的な技能と専門的な知識を持つ同科の学生への信頼は厚い。

少ない県内の求人

県内に受け皿がなくて県外に出る学生も多い」と嘆く。2004年に名護市辺野古に開校した国立沖縄工業高等専門学校の機械システム工学科も同じような傾向にある。11年度、同科の県外就職者の割合は7割を超えた。

ただ、同学科長の宮田恵守教授は「沖縄に金型産業を根付かせる動きがある。県内から技術者を採用しようという進出企業もある」と話す。長野県に親会社があり、06年に沖縄に進出した加工装置製造のベアック沖縄（うるま市）は、11年度、同科の学生を2人採用した。技術者の社員全員が県内出身者だ。

宮田教授は「近年、沖縄に工場を造るから人材面で協力してほしいという話もある。今後沖縄に人材が増えて技術が蓄積されれば、いつかは製造業が根付くかもしれない」と期待した。

(長嶺真輝)
(水一金曜掲載)